

「床下蓄熱材にCBを」

道無暖冷房住宅研究会が研修会

北海道無暖冷房住宅研究会（繪内正道会長）は

10月6日、札幌市内で会員研修会を開催し、繪内会長が「ZEHと無暖冷房の本質的な差異について考える」をテーマに講演した。

ZEHの「ゼロエネルギー」の定義は、①太陽電池の発電量でヒートポンプの暖房エネルギー量を補える②太陽電池で発電した電気の売電額が電力会社から購入する電気

料と等しい③住宅の高気密高断熱化に努め、日光等の室内取得熱量のみで建物からの熱流出量を賄えるなどとし、様々な定義がある中で、当研究会では室内取得熱でゼロにできるよう取り組んできた」と話した。

国がZEHに補助金を交付し、推奨していることについて「本州の経済圏を対象とした太陽電池やヒートポンプ、HEMS化に係る住宅機器製造

熱高气密化を目指した方が良い」と指摘。

無暖冷房住宅の実現に向けて、床下空間の蓄熱用材としてのコンクリー

トブロックの使用を挙げ、「コンクリートブロックは空気を通す空洞に富み、伝熱面積も大きい。屋間に日射などの自然エネルギーも含めた熱を蓄熱し、夜間利用することで室内蓄熱だけで過ぎせると解説した。



講演する繪内会長

産業の高度
経済成長が
狙いと感じ
る。本道で
は積雪寒冷
な地理条件
を踏まえ、
自然エネルギーそのものを有効利用する高断